



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1998, 69(6):
851-852

ISSUE DATE:

1998-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/96253>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成10年3月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第69巻 第6号

ISSN 0525-2997

vol.69 no.6

物性研究

1998 / 3

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し議論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の論文を欧文の論文中で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) 69 (1997), 1. のように引用して下さい。

[原稿作成要領]

1. 原稿は、原則として日本語に限ります。
2. 投稿原稿は2部提出して下さい。但し、研究会報告は1部で結構です。
3. 別刷を希望の場合は、投稿の際に、50部以上10部単位で、注文部数・別刷送付先・請求先を明記の上、お申し込み下さい。別刷代金については、刊行会までお問い合わせ下さい。
4. ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。
 - 1) 用紙はA4を縦に使用。(印刷はB5になります。縮小率 約86%)
 - 2) マージンは、上下各約3 cm、左右各約2.5 cm。1ページに本文34行、1行に全角文字で42字程度にして下さい。
 - 3) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、本文との間に受理日を入れるので、余白を少しあけて下さい。
 - 4) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 5) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
5. 手書き原稿の場合の原稿作成要領については、刊行会までお問い合わせ下さい。
6. 研究会報告の作成要領については、物性研究ホームページをご覧ください。か、刊行会までお問い合わせ下さい。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学 湯川記念館内
物性研究刊行会

Tel. (075)722-3540, 753-7051

Fax. (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

編集後記

自宅からテレビ、新聞を追放して、もう五年以上にもなる。これらのメディアは、プラスの情報を提供するどころか、誤りだらけの情報に終始している、というのが直接の動機であった。ところが、追放すべきメディアはこれだけではとどまらなくなってきた。たとえば、最近、自宅から新たに追放したある邦文誌は、多くの記事を定評ある英文誌の邦訳によってまかなっている。当初、私はこの邦訳に何の疑問も持たなかった。ところが、ある記事の内容がどうしても理解できず、困り果てて英文誌を参照してみたのである。すると、内容が大幅に削除あるいは加筆されていたのである。もちろん、そのような注釈は邦文誌にはいっさいなされていなかった。

こうして、追放すべきメディアのリストは増える一方で、問題はそれほど単純ではないことに、最近気づいた。というのは、誤りだらけの情報は、一般の家庭を単に汚染しているばかりでなく、専門分化してきた現代の科学においてさえ、蔓延していたからである。マクリントックが発見しながら、半世紀近くも無視され続けたトランスポゾンと呼ばれる「動く遺伝子」の例にも象徴されるように、現代科学の常識と非常識は新世代科学の非常識と常識へと転化していく運命かもしれない。

ここで、私たちの取るべき態度は、このような矛盾をありのまま受け入れることによって、自己発展し続ける以外にないと思われる。本誌が明確な存在意識を持つのは、流行とは無縁に記事の編集を行なっているところにある、と私は信じている。

(あした天気にな〜れ)

物 性 研 究 第69巻第6号 (平成10年3月号) 1998年3月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606-8225	京都市百万遍交差点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

編集後記

自宅からテレビ、新聞を追放して、もう五年以上にもなる。これらのメディアは、プラスの情報を提供するどころか、誤りだらけの情報に終始している、というのが直接の動機であった。ところが、追放すべきメディアはこれだけではとどまらなくなってきた。たとえば、最近、自宅から新たに追放したある邦文誌は、多くの記事を定評ある英文誌の邦訳によってまかなっている。当初、私はこの邦訳に何の疑問も持たなかった。ところが、ある記事の内容がどうしても理解できず、困り果てて英文誌を参照してみたのである。すると、内容が大幅に削除あるいは加筆されていたのである。もちろん、そのような注釈は邦文誌にはいっさいなされていなかった。

こうして、追放すべきメディアのリストは増える一方で、問題はそれほど単純ではないことに、最近気づいた。というのは、誤りだらけの情報は、一般の家庭を単に汚染しているばかりでなく、専門分化してきた現代の科学においてさえ、蔓延していたからである。マクリントックが発見しながら、半世紀近くも無視され続けたトランスポゾンと呼ばれる「動く遺伝子」の例にも象徴されるように、現代科学の常識と非常識は新世代科学の非常識と常識へと転化していく運命かもしれない。

ここで、私たちの取るべき態度は、このような矛盾をありのまま受け入れることによって、自己発展し続ける以外にないと思われる。本誌が明確な存在意識を持つのは、流行とは無縁に記事の編集を行なっているところにある、と私は信じている。

(あした天気にな～れ)

物 性 研 究 第69巻第6号 (平成10年3月号) 1998年3月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606-8225	京都市百万遍交差点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都 01010-6-5312

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円** (1 Volume 9,600円) です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類(請求、見積、納品書)が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より 6 ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物 性 研 究 刊 行 会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

電話 (075)722-3540, 753-7051

FAX (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

物 性 研 究 69—6 (3月号) 目 次

○講義ノート

「私の電子相関事始—二つの論文」……………長岡 洋介…… 777

○海馬θリズムと記憶・学習処理過程

……………夏目 季代久、米谷 快男児…… 794

○遅い緩和過程：モード結合と動的密度汎関数法……………川崎 恭治…… 810

○物理学による脳と心の探求を始める好機到来

—“Toward a Science of Consciousness Tokyo '99” 参加のお願い—

……………保江 邦夫…… 826

○編集後記…………… 851

○目 録 (Vol. 68, 69)…………… 852

物 性 研 究 69—6 (3月号) 目 次

○講義ノート

「私の電子相関事始—二つの論文」……………長岡 洋介…… 777

○海馬θリズムと記憶・学習処理過程

……………夏目 季代久、米谷 快男児…… 794

○遅い緩和過程：モード結合と動的密度汎関数法……………川崎 恭治…… 810

○物理学による脳と心の探求を始める好機到来

—“Toward a Science of Consciousness Tokyo '99” 参加のお願い—

……………保江 邦夫…… 826

○編集後記…………… 851

○目 録 (Vol. 68, 69)…………… 852